



ようかいすごろく 妖怪双六キャスト

双六読書会・小さな靴あと



なまえ か ようかい した ほんごう
名前の書いていない妖怪マスが17つあります。下にある番号の

なまえ えら か い ひょうごけん くまもとけん ようかい
名前から選んで書き入れてみましょう。兵庫県と熊本県の妖怪

もいます。正解は裏をみてくださいね。

1. ^{あぶら} 油すまし	2. ^{いったんもめん} 一反木綿	3. イデモチ	4. ^{みあげにゆうどう} 見上入道	5. ^{かっぱ} 河童	6. かまいたち
7. ^{きのこ} 木ノ子	8. ^{かく ばばあ} 隠れ婆	9. ^{しば えもん} 芝右衛門	10. ^{しばたろう} 芝太郎	11. ジョロウグモ	12. ^{ぬ かべ} 塗り壁
13. ^{ねこまた} 猫又	14. ^{ふなゆうれい} 船幽霊	15. ^{まめたぬき} 豆狸	16. ^{めくらべ} 目競	17. ^{らいじゅう} 雷獣	

そと せつめい ふりだし ひだりがわ 外マスの妖怪・ちょっとだけ説明(振出の左側から)



^{ひとつめこぞう} 一つ目小僧 ^{かし だいす} お菓子が大好き。こっそり食べて「だまっいてね」とお願いする。

^{てんぐ むかし ぶつぼう てき} 天狗 昔は仏法の敵だったが、今は山の神様になってお祭りにも登場することがある。

^{ちょうちん ば て も ちょうちん きゅう わら だ と} 提灯お化け 手に持っていた提灯が、急に笑い出して飛びまわり、びっくりさせる。

^{ろくろく くび ひる ふつう おんな ひと よる} ろくろく首 昼は普通の女の人で、夜になると首が長く伸びて人のエネルギーをすう。

^{からかさ ば むかし ふる かさ ぼ おも} 唐傘お化け 昔、古い傘は化けると思われていた。夜になると一本足で歩きまわる。

^{かしや わる} 火車 悪いことをした人が死んだら、葬式のとくに地獄の迎えとしてあらわれる。

^{お菊 きく ばんしゅうさらやしき さら うしな つみ ころ い ど す} お菊 播州皿屋敷で皿を失った罪で殺され、井戸に捨てられたお菊。その幽霊が…。

^{ざしきわらし みんか す こ} 座敷童 民家に住んでいる子どもの姿をした妖怪。座敷童がいる家は栄える。

^{お岩 いわ よつやかいだん しゅじんこう いわ} お岩 四谷怪談の主人公お岩さん。身勝手な夫に殺され、幽霊となって復讐をする。

^{ふすまめ もくもくれん おな だれ はいおく はい しょうじ} 襦目 目目連と同じ。誰もいないはずの廃屋に入ると、障子からたくさんの目が現れる。



きゅうび ここの お も おうごんいろ きつね ぜっせい びじょ ぼくに ほろ
九尾 九つにさけた尾を持つ黄金色の狐。絶世の美女に化けて国を滅ぼそうとする。



ゆきおんな ゆき ふ よる あらわ ことば か ころ きまざま い つた
雪女 雪の降る夜に現れる。言葉を交わすと殺されるという。様々な言い伝えがある。



ぬえ あたま さる からだ たぬき てあし とら おへび かいづつ たいじ かわ なが
鵺 頭は猿、体は狸、手足は虎、尾は蛇という怪物。退治され川に流された。



のっぺらぼう はな め かお ひと おどろ とうほく とうほく
のっぺらぼう 鼻も目もない顔で人を驚かす。東北ではずんべらぼうと呼ばれる。



ぬりひょん ようかい そうだいしょう しょうにん おおだんなふう すがた いえ あ ちや の
ぬりひょん 妖怪の総大将。商人の大胆那風の姿で、家に上がりお茶を飲んだりする。



ひやくめ からだじゅう め ひる まぶ よる ある ひと あ
百目 体中に目があり、昼は眩しくて夜しか歩けない。人に会うとどこまでもついてくる。

いっぽん いっぽんあし ひと め くまのさんちゅう いま す ようかい すがた み ひと
一本だたら 一本足に一つ目。熊野山中に今も住んでいる妖怪。姿を見た人はいない。

内円の妖怪・正解 (上りへより左側から順番に)



きのこ ひょうごけん さんちゅう さい こ すがた ようかい こ は ようふくが
木ノ子 兵庫県の山中にいる3~4歳の子どもの姿をした妖怪。木の葉が洋服代わり。



めくらべ ひょうごけん ふくはら たいらのきよもりたく なかにわ あらわ どころ きよもり ま なら かせ
目競 兵庫県の福原、平清盛宅の中庭に現れたたくさんの髑髏。清盛は負けずと睨み返す。



かっぱ みずべ ようかいはなば一わん ぜんこくかくち しゅつぽつ すもう だいたす
河童 水辺の妖怪 No. 1。全国各地で出没する。いたずらと相撲とキュウリが大好き。



らいじゅう かみなり とも お たぬき に ようかい からだ はいいろ まえあし にほん うし あしよんほん つめ すいしょう
雷獣 雷と共に落ちてくる狸に似た妖怪。体は灰色で前足は二本、後ろ足四本。爪は水晶



いったんもめん いったん やく しろ めの ゆうがた よる と ひと おそ ようちゅうい
一反木綿 一反(約10メートル)の白い布が夕方や夜、ヒラヒラ飛んでいる。人を襲うので要注意。



しば えもんたぬき しば えもん ともだち たぬき ろうじん ぼ おおさか しばいけんぶつ い ころ
芝右衛門狸 芝右衛門と友達の狸が老人に化け大坂の芝居見物へ行き、犬に殺されてしまう。



ぬりかべ よみち ある ひと まえ とつげんた ぼうき あしもと ほん き
塗り壁 夜道を歩く人の前に突然立ちはだかる。棒切れで足元を払うと消えてしまう。



しばたろう しば えもんたぬき むすこ きん ちやがま ぼ しばいけんぶつ な おや はかまい い
芝太郎 芝右衛門狸の息子。金の茶釜に化けて、芝居見物で亡くなった親のお墓参りに行く。



ふなゆうらい よる かい あらわ ひしゃく か い ひしゃく ふね みず い しず
船幽霊 夜の海に現れ、「柄杓を貸せ」と言う。その柄杓で船に水を入れ沈めようとする。



まめたぬき さかぐら す たぬき おと まめたぬき よ さけ
豆狸 酒蔵に住む狸。音をたてるいたずらをする。豆狸がいると良い酒ができるという。



みあげにゆうどう よなか さかみち のぼ こぼうず た おお み こしにゆうどう
見上入道 夜中に坂道を登ると小坊主が立ちはだかり大きくなっていく。見越入道ともいう



イデモチ さかま淵の主。障子の向こうに住んでいる。腹の吸盤で人を捕まえて命を奪う。

油すまし 熊本県天草の草隅越の峠にいる妖怪。峠で噂をすると「いるよ」と出てくる。



猫又 昔、猫は老いると化けると思われていた。赤い手ぬぐいを被り、尾が二つに分かれる。



かまいたち つむじ風に乗って現れ、鎌のように鋭い爪で人を傷つける。痛みは感じない



隠れ婆 神戸あたりで、夕方に子どもが隠れんぼをすると現れて、その子をさらっていく。



ジョロウグモ 美女に化けて、男の人を誘惑する蜘蛛の妖怪。糸で滝壺に引きずり込む。

妖怪双六を作るときに参考にした本です。参考文献といえます。

47都道府県・妖怪伝承百科 小松和彦・常光徹監修 丸善出版

日本中の妖怪が、都道府県ごとに載っています。地域の特徴や、伝承(古くから伝わってきたこと)の特徴が書いてあります。イラストや図は少ないのですが、その地域特有の妖怪が紹介されており、詳しく調べるには良い本です。

決定版 日本妖怪大全 妖怪・あの世・神さま

水木しげる著講談社文庫

水木しげる先生ならではの細かなイラストと妖怪の説明が載っています。その数895は圧巻です。

となりの妖怪さん noho著 イースト・プレス

妖怪さんも神さまも、すぐとなりにいて、普通に人と一緒に暮らす世界が描かれて

います。法律もあり、妖怪さんと結婚している人もいます。それぞれ違っていても、お互いを認め合い支え

合いながら暮らす世界の優しさ。私たちの世界もこうなって

いけば楽しいだろうなと思える一冊です。